

びびっと Vivid

No.30

「人生100年時代」における 女性のライフプラン

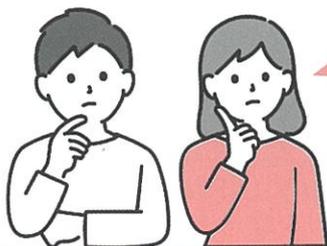
現在、平均寿命が延び、100歳を超える人も年々増加しており、「人生100年時代」が到来しています。

これまでは「学び→仕事→老後」という3ステージの単線型の人生が一般的でしたが、今では、複線的かつ多様なマルチステージの人生へと変化しています。



「人生100年時代」を迎え、多様な生き方・ライフコースの
選択肢が増えてきています。

「自分らしく生きる」ことについて、考えてみましょう！



CONTENTS

- 「人生100年時代」における女性のライフプラン
- 男女共同参画センター・助成金のご案内

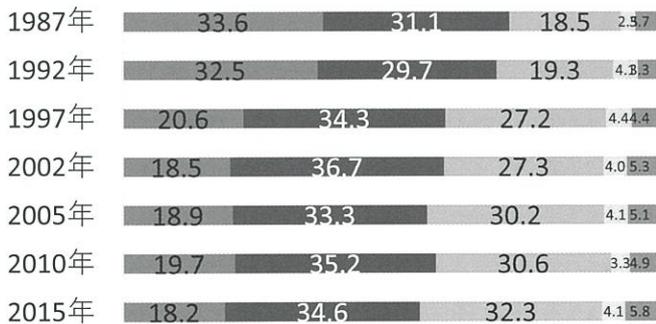
「人生100年時代」における女性のライフプラン



女性のライフコースの変遷

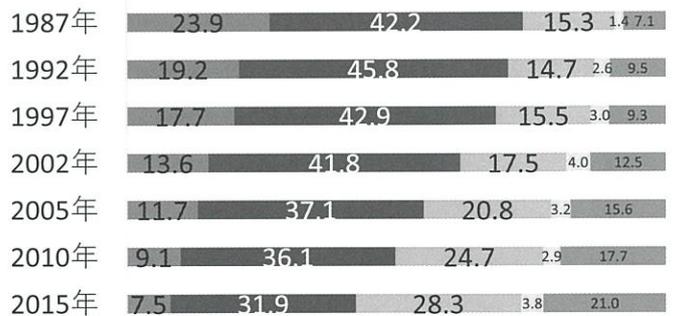
下の図は、女性が自らの結婚・出産・子育てと就業との関係について、理想とするライフコースと実際になりそうだと考えるライフコースを調査した結果です。

女性の理想ライフコース



■ 専業主婦 ■ 再就職 ■ 両立 ■ DINKS ■ 非婚就業

女性の予定ライフコース



国立社会保障・人口問題研究所 「第15回出生動向基本調査」より

専業主婦：結婚し子どもを持ち、結婚あるいは出産を機会にいったん退職し、その後は仕事を持たない
 再就職：結婚し子どもを持つが、結婚あるいは出産の機会に退職し、子育て後に再び仕事を持つ
 両立：結婚し子どもを持つが、仕事も一生続ける
 DINK (Double Income No Kids)：結婚するが子どもは持たず、仕事を一生続ける
 非婚就業：結婚せず、仕事を一生続ける

この調査では取り上げられていませんが、自分の意思で、結婚を選択せずに、出産、子育てをする「選択的シングルマザー」もいます。また、さまざまな理由で結婚を選択しない・できないなど、家族・結婚についての価値観も多様化しています。



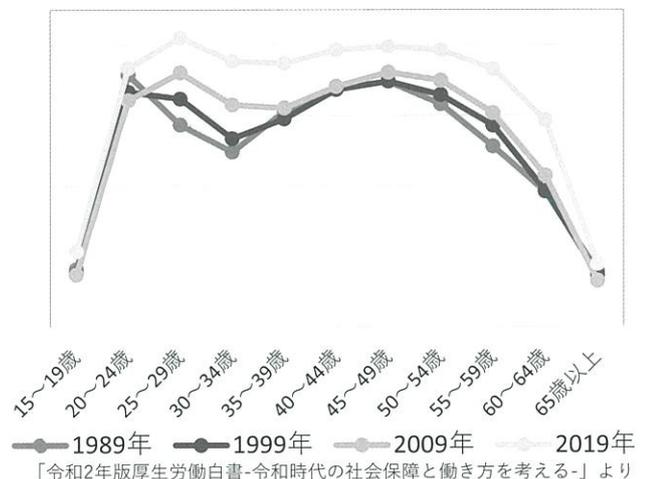
「両立」について

1985年に制定された「男女雇用機会均等法」では、女性に対して、妊娠・出産を理由に解雇するといった女性差別が禁止され、女性の就業に対する国民の意識が向上しました。

1997年ごろから、家庭と仕事の「両立」を理想とし、実現する女性が増加し、この背景には、女性の就業支援を目的とした法律が施行されてきたことやジェンダーをめぐる意識の変化がありました。

「両立」を理想とする女性が増加するなか、右図のように結婚・出産を機に離職する「M字カーブ」問題が指摘されていました。男女ともに働きやすい職場環境や仕事と子育て等の両立支援が行われてきた結果、女性の就業率は台形に近づいており、「両立」という選択を実現できる女性が増加しています。

女性の年齢階級別就業率の変化



「非婚就業」について

結婚せずに働き続ける「非婚就業」を理想とする割合は少ないにも関わらず、実際になりそうだと考える女性が増えてきています。その背景には、女性は結婚した場合、「仕事」に加えて「家事」をしなければならないと、また、出産を機に「仕事」を辞めなければならないという現実を考え、「結婚せずに、働く」という選択をせざるを得ないのかもしれない。

また、今ではライフコースの選択肢が増え、「結婚」という選択よりも、自分のキャリアを形成したいという意識が広がっていることも考えられます。



「自分らしく生きる」ためには？

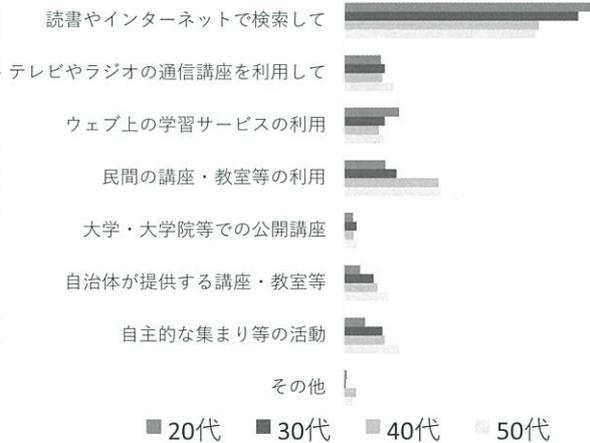
「人生100年時代」において、自分らしく生きるための方法として「学び直し」が挙げられます。

仕事においては、転職や起業など多様なキャリア形成が可能となり、また、ボランティアや地域活動、趣味などにおいては、人生を豊かなものにしてくれます。

学び直しをする方法として、右図のような例が挙げられます。日本では割合が少ないですが、海外では「大学・大学院等での公開講座」は大きな効果があるとされ、大学等で学び直す習慣が定着しています。

生涯を通じたさまざまな学びは、「人生100年時代」において「自分らしく」生きていくために大切になってくるでしょう。

仕事以外の活動のための学びの方法（女性）



【令和元年度版男女共同参画白書】より



富田林市では学びの場として、男女共同参画フォーラム「Be-inひろっば」や男女共同参画関連講座などを開催しています。また、男女共同参画センターウィズでさまざまな情報提供や男女共同参画活動助成金もあります。詳しくは裏面をご覧ください。

自分らしく生きるためには、女性だけが行動するのでは実現できません。それには、社会全体で取り組んでいく必要があります。

理想・希望

仕事したい！
結婚したい！



実現できない社会的な要因

女性に家事負担が偏っている

男性中心の意思決定

女性の役割が決めている

女性のライフプランへの理解不足

ほかにも

無意識の偏見による影響



インポスター症候群とは、自分の能力や実績を認められず自分を過小評価する心理傾向のことです。

この心理傾向は、女性に多いと言われており、「女性は家庭的で控えめに」という偏見が関係しています。インポスター症候群によって、管理職への昇進を断るなど仕事における選択に影響していることがあります。

自分らしい生き方をできるようにさまざまな働きかけが行われていますが、社会では「家事・子育ては女性、働くのは男性」などという無意識の偏見によって、女性に求める役割が決められており、女性にとって「自分らしく生きる」ための選択肢が限られています。また、現状の社会制度は、女性が家事・育児をすることや男性が長時間労働をする前提で作られています。

「人生100年時代」では、女性が多様な選択をし、「自分らしく生きる」ことができるよう、これまでの意識や社会の仕組みを変えていく必要があります。

性別に関わらず一人ひとりが自分らしく生きるための取り組みを、社会全体で行っていく必要があります。





「自分らしい」、理想のライフプランを 考えてみましょう!

(例)

2030年
[30歳]

夢や目標は?

キャリアアップの
ために起業する!

必要なことは?

●●資格の取得

[年 歳]

理想

必要なこと

男女共同参画センター・助成金のご案内



男女共同参画センターウィズ

男女共同参画をめざして活動するグループ・団体の自主活動、情報交換、交流のための拠点の施設です。

使用登録を希望される場合は、人権・市民協働課までご相談ください。

すばるホール3階
プラネタリウム前



男女共同参画活動助成金

市民のみなさんが、男女共同参画にかかわる研修会などに個人で参加する場合や、グループで講座の企画や学習・出版などの自主活動をする場合に、経費の一部を助成する男女共同参画活動助成金がありますので、ご活用ください。

詳しくは、市ウェブサイトをご覧ください。

市ウェブサイトはこちら



編集・発行 〒584-8511 富田林市常盤町1-1
TEL 0721-25-1000

富田林市 人権・市民協働課 人権・男女共同参画係

発行日 2023 (R5) 年2月

下記までご意見・ご感想をお寄せください!

E-mail
jinken@city.tondabayashi.lg.jp

